

付録3：がんの臨床試験（治験）情報の欲しい タイミングについての声

Q17.がんの臨床試験（治験）情報はどのタイミングで欲しいですか。

Q18.そう思う理由を教えてください。

※蛍光色で塗りつぶしのあるものはレポートにピックアップされたものです。

診断を受けて最初の治療を選択するとき

	立場
標準療法から、最新の情報まで一度に知りたいので。	CRC
治療に対する選択肢の一つとするため	CRC
治療の選択肢は情報提供頂きたいため	CRC
情報が分かる時点で、自身の判断で選択したいから	CRC
治験は最終治療ではないと思うから	CRC
情報を受けて、診断されたばかりで受け入れられなければ断って承認薬での治療を希望すればいいので、後から知るよりは後々聞いてよかったと思えると考えます。	CRC
様々な情報を事前知っておきたい	CRC
適格性に合致しているのかにもよるが、現在自分の病気・状態に対してどのような治療法があるのか知りたいため。	CRC
治療法がなくなった場合のイメージが強いため、治験は治療のひとつであり、選択枠をひろげる治療であるため、初めから選択に入れて、患者さんも治験を含めた治療をはじめから考えてもらう方が良い。そうでないと、治験で悪化した場合は、次の治療がなく、最後の治療のようになってしまう。	CRC
参加時期は先生と相談したいが、治療のひとつとして教えていただきたい	CRC
治療の選択肢として考えたいから	CRC
早期に知る事で今後の自分の治療計画についても考える事が出来るから	CRC
情報はすぐに更新されるので、その都度譲歩提供してほしい。	CRC
最初の治療の際に参加する治験もあると思うので、いつでも情報は必要	CRC
治療の選択肢は多い方が良いため	CRC
治療の選択肢は全て知りたい	CRC
色々な選択肢の中から家族と相談して決めたいと思うから。	CRC
いろんな情報を最初に知りたい	CRC
抗がん剤治療をしていると、入れない治験があるから	CRC
ファーストライン時から適切な治療を選択したい	CRC
治療法を選択できるうちに知りたい	CRC
最初にどんな病院でどんな医師にどんな治療をしてもらうか、とても重要だと思うので早く知りたい。	CRC
治療の選択肢を早めに知るに越したことはないと思うから。	CRC
最初にあらゆる選択肢を確認しておきたい	CRC
治験薬によっては最初の選択肢となりえるため	CRC
選択肢が増えるから	CRC
情報はたくさん欲しい。自らの事である為、最終的には自らが納得できる決断で治療に挑みたい。	CRC
どんな治療法があるか全て知った上で治療に当たりたいから。	CRC
治療の選択肢は沢山あった方良い。	CRC
臨床試験結果から最新の治療を受けるか、承認されているお薬を選ぶか決めたい。	CRC
治療開始してしまうと治験の選択の幅が狭まる可能性があるため	CRC
初回治療から治験がいいのか、標準治療がいいのかを検討したい	CRC
自分が納得できる治療を受けたいから	CRC
一次治療の臨床試験があるかもしれないため	CRC
参加できそうな臨床試験がどの程度あるかは治療の最初の段階から知っておきたい	CRC
情報は先に欲しい。選択はいつでもできるから。	CRC

治療の選択権は患者にある。医師はあらゆる治療の選択肢を患者が診断を受けた時点で説明すべき。医師は自身の知り得るすべての情報、知識、技術を患者に提供すべき。	CRC
自分で選択したいから	CRC
情報はほしいから	CRC
どの時点でもほしいが、最初に選択するとき次々の選択が無くなってしまふかもしれないので	CRC
治療の方向性を考えたいためです。	CRC
早い段階で情報を得ることで、参加の可否を適切に検討できるため	CRC
あらかじめどのような選択肢があるか知りたいので	CRC
治験に参加できる条件がいろいろあるから	CRC
可能性のあることはすべて知りたいため	CRC
いろいろな選択肢が欲しいから	CRC
さまざまな時期のものがあるので、できる限り早く知りたい	CRC
最初からの選択肢として考えたい、治療がなくなつてからというのは精神的に正常な判断が出来ない可能性もある	CRC
常に新しい試験情報が入手できれば幸いである。	CRC
自分で自分の治療法を選びたいから	CRC
選択肢の一つとして早くから知っていたい。	CRC
治療の方向性を見通せるように	CRC
早期に先々のことを考えたい	CRC
選択肢の一つとして	CRO勤務
情報は早めに欲しい。	CRO勤務
選択肢が多いほうがよいから	CRO勤務
標準治療で十分な結果が得られているなら 治験への参加はその後もいいから	CRO勤務
選択可能な治療方法について知りたいため。	CRO勤務
情報が全て明らかになつたうえで治療を進めたい。自分も積極的に関与したい。	CRO勤務
治療について、自分でも沢山の可能性について考えてみたいので	CRO勤務
選択肢は多いに越したことはないから。	CRO勤務
がんは昔ほど不治の病ではなく、長期にわたり治療を続けるものなので、あとがなくなつてから治験を検討するのではなく、最初から選択肢を多く持つておき、ベストなものを模索できる方が良いと思う。	CRO勤務
早く選択肢の中から治療方針を決めたい	CRO勤務
治療の選択肢は多い方が良いから。	CRO勤務
治療の選択幅が広がるから。	CRO勤務
より良い治療を選択するための情報として	CRO勤務
最初からでないとならない参加できないものもあるかと思うから	CRO勤務
未治療しか入れられないものもあるかもしれない。	CRO勤務
最初の診断の時点でも選択肢の1つとしては知っていたい	CRO勤務
治療方針の決定に関し、少しでも多くの情報がほしいと考えるため。	CRO勤務
不安を少しでも早く取り除きたいという願い	CRO勤務
常に提供を望みます。	CRO勤務
情報は早い方が良い	CRO勤務
社会貢献をしたいから。	CRO勤務
選択肢は色々あった方がいい	CRO勤務
取捨選択できるだけの情報を持ち合わせているため。ただし全くの素人であれば最初から提示を受けると悩んでしまうのかとも思う。	CRO勤務
診断時点が最も早期であるので、その時点での情報を知りたい	CRO勤務
既に治療を開始していると参加できないケースが多いため。	CRO勤務
選択肢を知つたうえで、自分の状況に合った治療を決めて行きたい。	医師
治療を選択する上で必要だから。	医師
選択肢が増える	医師
治療に関して多くの選択肢を得るため	医師
念のため	医師
情報	医師
適格性などの確認	医師
初回治療から治験のオプションを知りたいので	医師

職業上知りうる立場にあると思う。	医師
初めに治療の全体像を理解したい。	医師
情報としてなんでも関与するなら知っておきたいから	医師
トータルで治療を考えたいから	医師
今後を考えるため	医師
最初の治療でおおまかな方向が決まる可能性が高い	医師
現在行われている治験や臨床研究では初回治療の患者が多くリクルートされている印象。ターミナル期にさしかかってから、治験があるとと言われても、体力・気力的に参加の同意できるかどうかわからない。	医師
治験には様々な条件があるので	医師
事前に治療ラインに組み込みやすい	医師
予め知っておきたい。	医師
早い方が良い	医師
がんの治療というものは、診断された時から始まっているものであるため。	医師
他に保険適応の治療選択肢が複数残っていると思われるから	医師
その時点での最適な治療を選択したいため	医師
自分も医師として情報は欲しい。	医師
1st lineからの治験あり	医師
最新のものなので	医師
治療選択肢を知ったうえで、治療法を選択するため	医師
選択肢をすべて知って決めていきたいから	医師
後手に回るのではなく自分の意志で治療を選択したい	医師
初回治療のみが臨床試験の参加基準である場合があるから	医師
治験によっては標準治療 vs 新薬というFirstラインのものもあるので	医師
治療選択のひとつとして知っておきたい	医師
治療選択肢の幅を最初から広げたい	医師
臨床試験の対象は千差万別で、初回標準治療法に対する臨床試験もあるはずだから。	医師
最初の治療で、その後の治療選択肢もおおのずと決まってくるため	医師
しりたいから	医師
治療オプションは早めにすべて知っておきたい。	医師
前もって治療法を決めたい	医師
選択肢の一つとしたいから	医師
臨床試験に参加するのに最適なタイミングを判断できるから	医師
選択肢としては十分考慮しておきたいので。	医師
自己で治療選択を行いたいため。	医師
すべての選択肢を知って、治療に望みたい	医師
理解した上で戦略を立てたい	医師
最新の治療情報を得るため	医師
悩みも増えるが、選択肢が増えるため。	医師
治療の全体像を知りたい	医師
早い方が良い	医師
情報は	医師
最初の選択時に選択肢が多いほうが良いと思うから	一般
単なる知識欲です	一般
がんは初期段階での治療が重要であるため、がんと分かった時点で情報な欲しい	一般
どうせなら最新の治療法で最初から治療したい。	一般
情報として、早い段階で治験情報も知っておきたい。	一般
違う治療を行った影響で、その治験が受けられないこともあるため。	一般
先述の通り	一般
承認薬では、効果が無い場合もありうる。DNA検査をして、オーダーメイド治療を受けたい	一般
最先端の治療を最短で受けられる可能性があるため	一般
がん治療の医術は現時点でも発展途上であろうから、最新鋭の技術で治療に当たって欲しいと思う	一般
臨床試験を受けるのなら、体調がベストの状態を受けたいので。	一般
治療の方法の選択肢がベストに近づく	一般

他の選択肢がある状況で説明を受けるのでなければ、自己決定権が実質的に保障されているとは言えないから。	一般
後で知って、後悔したくない	一般
治療方法の選択ができるから	一般
治験も治療手段の一つとして把握しておきたいため	一般
多くの選択肢を受容したい	一般
選択肢の必要性	一般
最初に情報があった方が治療の選択肢が広がる	一般
中途半端な状態での処置は実験材に見られる。	一般
治療法の選択肢に加える	一般
治療費の面でも選択肢の一つと考えられるため	一般
選択肢を増やしたいから	一般
最初に知っておきたいから。	一般
医師の理解度を知りたい	一般
時機を逸するリスクを減らしたいため。	一般
早めの段階で知りたい。	一般
ファースラインの1つの選択肢とするため	一般
自分で選択したという実感が欲しい	一般
現時点での治療の全体像を見知った上で、今の治療方法を選択したいから	一般
医師や他人任せにせず、自分でもしっかりガンに向き合いたいので、選択肢の1つとして最初に知りたい。	一般
常に最新情報が欲しいから	一般
可能なかぎりの選択肢を知りたい	一般
選択肢を多くしたい	一般
選択肢は多いほうがよいと思うので。	一般
どのような治療選択肢があるのかを最初に知りたいため	一般
早く知りたいから。じっとしてられないから	一般
リスクなどもあるかもしれないが、後出しされるのは気分が良くないから。	一般
先程と同様、他の可能性を早く知りたい為	一般
きたいできるかも	一般
最初の方がショックが楽	一般
一刻も早い治療をしたいので	一般
出来るだけ早いほうが	一般
できるだけ早期の方が選択肢が増えそうな気がする	一般
するなら早いに越したことはないから	一般
最初から考えたいから。	一般
早期発見	一般
あらゆる情報が欲しい	一般
はじめに知りたい	一般
選択肢は多い方がいいと思うので	一般
タイミングを逃したくないから	一般
早い方がいい	一般
情報として早い段階でほしいから	一般
当然ながらより多くの情報を元に選択したい為	一般
選択肢が増えるから	一般
治療費が軽減できそうだから。	一般
治療費を軽減したい。	一般
最初から間違っていたら何にもならない セカンドオピニオンが必要かもわからないから	一般
即対応したい	一般
早めの治療が有効だと思うから。	一般
早いうちに情報はあったほうが良いと思うので	一般
最適最高!!! 素晴らしい!!!	一般
早いうちの完治を目指したい	一般
選択肢は広いほうが患者にとっては有難い	一般
治療を要する場合は、当然その段階での判断が必要。	一般
早めに判断したい	一般
最初から自分で決めたい	一般
色々な場合を考えたい	一般

常に治験には協力したいと思っているので。	一般
早期に知りたいから	一般
選択肢の一つに治験も加えたいから。	一般
最初からなんでも知っておきたいから。	一般
気がかりだから	一般
引き返せなくなることもあるかもしれないから。	一般
進行が進むにつれ、選択肢が少なくなるから	一般
今の治療法はあまり効き目がなさそう	一般
初期治療	一般
なんとなく。	一般
自分が可能な範囲でも主体的になりたい。まな板の上のマグロでは気持ちが耐えられそうに相えません。	一般
あらゆる治療選択肢があったほうが良いから。	一般
すべての可能性を加味して治療法を選択したい。	一般
選ぶ選ばないは別にしてとりあえず選択枠の1つとして頭に入れておきたい	一般
治験も一つの選択肢としてすべての治療法と一緒に提示されるべきと考える	一般
早く知りたいから	一般
初めから、選択肢は多い方がいいと思うから。	一般
治療の選択肢はより多い方がいいと思うから	一般
選択肢は多くあるべき	一般
自分でも選択する判断に携わりたいから	一般
情報が要領よくまとまっているから	一般
情報・選択肢はひとつでも多く得ておきたい	一般
日々増殖するがん細胞にはいち早い選択肢が必要	一般
早めに対策したいから	一般
早期対処が重要と思うから	一般
最初から知りたいので	一般
正直わからない部分もありますが、実際なったら診断を受けたらすぐに直す方法を知りたいと考えるはず。	一般
自分自身で最良の方法を選択したい	一般
なんでもいいので情報を知りたいから	一般
治療の選択肢の一つと考えているから。	一般
早いうちから参加したほうが薬の効き目など自分で納得できる	一般
早い段階で決断したい	一般
選択肢として出すのであれば、最初からすべての選択肢を知った上で治療に臨みたいから	一般
はやいほうがいい	一般
もし、自分が患者として情報を貰うなら早い段階で選択肢を持っておきたいから	一般
後で後悔しないよう、可能性がある情報は、先に知りたい	一般
総合的に考えたいから	一般
より良い治療をうけたいから	一般
1stラインの治療薬や治療法が奏功しなくなった後の判断よりも、前の判断の方が、自分は冷静に判断できると思う。	一般
早い段階から治療の選択肢を確認しておきたいから	一般
最初は承認された薬剤を選択するかもしれないが、後の治療を考え、情報はできるだけ入手しておきたいと思うから。	一般
他人任せではなく自分で決めたい	一般
選択肢は早い段階から知っておきたい。	一般
1つしか選択できなかったが、最初の治療も、現時点での治療でPDIになったタイミングでも、いずれのタイミングでも情報が欲しい。治験や治療法は常に新しくなっている。また1st Lineか2nd Line以降かでも、また自分の病状によっても選択肢が違う。そのため、常に今自分が選択できる情報をほしい。	一般
生存率やQOL等を考えて、治療の選択判断の1つにしたい	一般
治療歴により参加条件に合わない場合もあり、参加可否がタイミングに左右されることも往々にしてあるため、標準治療を第一選択肢としつつ、情報としては早期に得ておきたい。	一般
インフォームド・チョイスおよびQOL:自身の生活設計を考え、自分で選択し納得のいく治療を受けたいですから。	一般

症状にもよるが、最初のオプションは多いほうが良いと思う。前治療NGの治験もあるので。	一般
時間が限られているから	一般
患者の生き方や人生観というものが、早い時期から知って、対応を考えておけるに越したことはないと思うから。	一般
ガンの治療は初期段階が一番大切と思うので	一般
随時ご教示いただきたい。医療従事者でなくても学会や論文等、最新情報にアクセスできる時代にある。	一般
情報を取得するのは、早い方がよいと思うから。	一般
自分が薬剤師なので	一般
なるべく早い段階が良いと思います。癌にかかってからでは、遅い場合もありますが…	一般
標準的な治療を受けていないと臨床試験の対象者にならないこともあるため、最初に臨床試験に関する情報(条件等)もきちんと手に入れたい。	一般
早い段階で選択肢として入れたいから	一般
初期治療が対象の治験もあると思うから	一般
効率良く治療したい	一般
選択肢は幅広くあった方がよい。一か所の入口に入ってしまうと後戻りできない事もあるから、最初が良い。	一般
早く選択したい	一般
後悔しない選択をしたいから	一般
すべての選択肢に差をつけたくない為。	医療従事者
承認されている薬以外の選択肢があるのであれば、承認されている薬を選択する前に知りたい	医療従事者
病状によっては治療のスピードやタイミングが重要な場合があると思う。	医療従事者
今後の不安の軽減と共に選択肢を増やし、納得した治療を選択したいから	医療従事者
早く情報が欲しい。治療の選択肢を増やしたいので。	医療従事者
もしかすると、合併症や副作用などが少ない方法である可能性があるのではないかと思う為。	医療従事者
最初から情報はほしい	医療従事者
はじめから様々な選択肢と医師の判断を知りたいため。	医療従事者
すべての選択肢を知った上で、自分にとって最適な治療を選びたいから	医療従事者
選択の幅を広げられるのは良いと思うから	医療従事者
医療従事者として最初から、治療法を全て知っておきたい	医療従事者
選択肢が増えるから。	医療従事者
情報を知るとは、病気を知ることになるため	医療従事者
早くどうにかしたいから	医療従事者
早ければ早いほうがよい	医療従事者
情報を得るのは早いほどよいから	医療従事者
早いほうが不安感が払しょくできそうだから	医療従事者
情報は多い方が良い。選択肢は多い方が良い	医療従事者
すべての可能性の中から選びたい。何かの治療をやったあとでは受けられない治療もあると思うので、こんなものがあるよ、という情報は欲しい。	医療従事者
自分でも調べたいので、始めから教えて欲しい。	医療従事者
今後どのようなタイミングでどのような選択肢が存在するのか、治療チャートのような全体的なイメージを患者本人のみでなく家族も持っていた方がよいと思うし、情報を得てから決断するまでのタイムラグを考えると、情報だけでも早めに知っておいた方がよいと思うから。	医療従事者
選択肢として、知っておきたい	医療従事者
全ての選択肢を知った上で治療を選択したいから	がん患者の家族
治療法が無くなった時に、まだ治療に耐えうる状態にあるとは限らないから。	がん患者の家族
臨床試験において未治療、という条件が意外と多いので	がん患者の家族
日本でまだ承認されていない薬が使える。治療費がかからない。	がん患者の家族
できる限り早い段階の方が良いと考えるから。	がん患者の家族
前述と同じ。可能な選択肢の中から、医師と相談し最終判断は自分でしたいから	がん患者の家族
情報は多ければ多いほど選択肢が広がるため	がん患者の家族
早い段階からのほうが焦らず考えられるような気がする。	がん患者の家族
打てる手は早いうちに打ちたい	がん患者の家族

最終手段のように出されたら却って抵抗を感じます。最初から選択肢として説明すべき。	がん患者の家族
あらゆる可能性を知り、選択を考えていきたいので。	がん患者の家族
チャンスロス避ける為	がん患者の家族
承認されている薬より効果のある薬かもしれないので。	がん患者の家族
治療の選択肢を広げたい	がん患者の家族
自分に最適な治療法を最初から受け、医療費の無駄防止や副作用を最小限にするため	がん患者の家族
治験の条件に治療を受けていたら不適合となる場合があるので、最初の治療の段階で欲しい。	がん患者の家族
最初が重要	がん患者の家族
最初に教えてもらえたらセカンドオピニオンを使えるし選択肢があるが選択肢が有る分迷うかも？	がん患者の家族
最新の情報を最初から知ってほしい。	がん患者の家族
治療選択の幅を広く持っておきたい	がん患者の家族
選択肢は少しでも多い方がよいので。	がん患者の家族
先々の治療の可能性を知っておきたいので。	がん患者の家族
治療に入る前に何ができるのか？あくまでも情報なら、治療選択前に予備知識副作用などしりたいです	がん患者の家族
選択肢が欲しい	がん患者の家族
もちろん医師とはよく相談したいが 選択の一つに入れたいから。	がん患者の家族
患者として選択が可能なのであれば、できるだけ早期に多くの情報に接したいから	がん患者の家族
選択肢は最初に提示すべき	がん患者の家族
知識として知っておきたい	がん患者の家族
情報は早ければ早い方がいい。行動を起こすまでにいろいろ考える時間があるから。	がん患者の家族
全ての選択肢のなかから、考えたいので。	がん患者の家族
治療は自分で決めたいから	がん患者の家族
闘病は情報戦と思っているため	がん患者の家族
臨床試験の対象患者は「治療開始前」が多いような気がする。	がん患者の家族
納得して治療したい。治療経過が思わしくないときに方針転換を含めた判断をするには早い段階で情報が必要	がん患者の家族
あらゆる選択肢から最適な治療方法を選択したいから	がん患者の家族
最先端の医療技術で助けてほしいと思うから。	がん患者の家族
希少がんなどの場合に検討したいから	がん患者の家族
よりよい治療法を知りたいから。	がん患者の家族
最終手段だとは思えないため	がん患者の家族
母(患者)がそうなので。とてもよい選択だったと今は思っています。	がん患者の家族
できるだけ初期に選択肢が欲しいから	がん患者の家族
治験を受けるか受けないかはおいといて、どのような方法があるのか治療前に知っておきたいから	がん患者の家族
前者と同じ	がん患者の家族
早め早めに情報を得たいので	がん患者の家族
可能性はたくさんほしい	がん患者の家族
治療に入る前に選択肢は多く欲しい	がん患者の家族
可能な限りの全ての治療方法を知って最初から選択したいから	がん患者の家族
治癒が難しい癌であった場合、早い選択が大事。治験に協力もするが残された時間を有効にしたい。	がん患者の家族
機会獲得	がん患者の家族
選択肢の一つとして知っておくべき。治療法が無くなってから情報提供されると、患者家族は医療に対して不信感を持つ可能性がある。最初の段階、というよりも、最初の段階から、少し時間が経過した時がベターに思う。全くの最初の段階だと、優先順位を間違えてしまう可能性がある。	がん患者の家族
治療方法を決定するための参考	がん患者の家族
最初に医者からあらゆる選択、説明がほしい。命にかかわる病気だから	がん患者の家族
選択肢は多い方がいいと思います。	がん患者の家族
治療選択肢を増やし、医師のアドバイスを受け、自分で選択したいと思いません。	がん患者の家族

後悔しなくて済むようにしたい。	がん患者の家族
他に治療の選択肢がある時に知りたいから	がん患者の家族
治療するしないも、できる事できない事も、知って選択したい。	がん患者の家族
今、行なわれている治療がすべての癌患者に有効とは思えないから、抗がん剤使用は特にそう思う。	がん患者の家族
いろいろな状況があるとは思いますが、実際に、もう治療法が…という状況になる前の心身ともに動ける状況時事前に検討しておきたいと思う。(その後もし自分で意見が言えなくなっても予め希望を家族に伝えておくこともできるし)	がん患者の家族
最後の選択肢として、情報を持っておきたい。	がん患者の家族
最初の治療選択の際に知っておいた方が『臨床試験(治験)というものがあるんだ』と、心構えが出来るから。広く捉えられると思う。	がん患者の家族
選択する際の材料として必要だから	がん患者の家族
医師によって説明するかや、その時期がばらつくため、最初に説明するよう決まっていたほうがよい。	がん患者の家族
最初から選択肢として情報がある方がいい。医師と話し合っ決めてられるとなお良いと思う。	がん患者の家族
告知され治療を始める段階で、より多くの選択肢がある事により、より良い結果へ結びつくであろうと考えるから。	がん患者の家族
出来るだけ早く選択肢を知りたいから	がん患者の家族
早くに集めないといけません。また、更新も必要です。	がん患者の家族
選択肢を広く持ちたい	がん患者の家族
治療の選択肢が限られている状況で、早め早めに次の手を考えておきたいので。	がん患者の家族
持てるだけの情報を持った上で治療に入るのが望ましいと考えるため	がん患者の家族
選択をしなければならぬとしたら、その数は多い方がいいのではと思うから。そもそも、選択肢があるには、それなりの理由が担当医にあるからだと思うから。	がん患者の家族
治療効果を予測したい	がん患者の家族
早いうちにいろいろな情報がほしいから。	がん患者の家族
早期治療が早い解決になるから	がん患者の家族
可能性は沢山あるとよいと思うから、本当はがんになる前から情報としてはほしいと思う、少しは落ち着いて癌に向かい合えらると思うから	がん患者の家族
選択肢は多ければ多いほどよいので。	がん患者の家族
早いほうがよい	がん患者の家族
早いほうがよいから	がん患者の家族
可能性は広いほうがよい	がん患者の家族
苦しめない方法の選択肢の一つ	がん患者の家族
選択肢を拡げたい。	がん患者の家族
はやいほうがその後の生活を考えるうえで役立つから	がん患者の家族
はじめから知りたい	がん患者の家族
どうせなら悪化してからよりも最初からの方がよいと思うから。	がん患者の家族
早ければ治療の選択肢が広いと思うから。	がん患者の家族
早期に限る	がん患者の家族
後から知って手遅れだったという気持ちになりたくないから	がん患者の家族
自分なりに病気のこと、治療選択を理解したい。	がん患者の家族
選択肢の一つとして考えられるから	がん患者の家族
早い段階から見通しを持ちたい	がん患者の家族
希望があるなら早くから。	がん患者の家族
これから受ける治療内容と共に治験があるという事も頭の片隅に入れておきたい。	がん患者の家族
色々なことを試したいので	がん患者の家族
少しでも完治する可能性が出てくるかもしれない	がん患者の家族
選択肢が多いほうがよいと思っている。	がん患者の家族
選択肢は多いほどよいから。	がん患者の家族
新しい薬に出会いたいから	がん患者の家族
治療法のひとつとしての情報がほしいから	がん患者の家族
特に無し	がん患者の家族
ガン宣告受けたら、情報が欲しいのと、自分にあった治療法を選択したい	がん患者の家族
最後の手段とは思わない。常に選択肢の一つとして情報を得ていたい	がん患者の家族

早い方が良かったため。	がん患者の家族
選択肢はあらかじめ提示してほしい	がん患者の家族
早く知りたいから	がん患者の家族
早い方がまだ体力がのこっている	がん患者の家族
はやく知り、選択肢を増やし自分のためにも。	がん患者の家族
医師によって薬の使用方法や種類の選択方法などが異なる為(好みの薬がある様に感じる)	がん患者の家族
選択の幅を広げたいから	がん患者の家族
最初に様々な選択肢を示してもらいたいから	がん患者の家族
まず最初に何を選擇するかが、長期生存のためには重要と考える	がん患者の家族
選択肢が多い方がよい	がん患者の家族
自分で治療法を選擇できるから。実際には迷うかもしれませんが…。	がん患者の家族
最初から他の治療法と平等に選択肢に含んで欲しい	がん患者の家族
癌は進行するから	がん患者の家族
治療方針によって、その後受けられる治療が制限されてしまうと聞いたので	がん患者の家族
知っているのと知らないのでは考えも腹積もりも変わってくるから。	がん患者の家族
時間を無駄なく使える。	がん患者の家族
初めは標準治療を行うにしても、情報は持っていたい。	がん患者の家族
早い段階で知ることが、自分自身の選擇の時間や幅を広げると思うから。	がん患者の家族
後でどうしようもなくなった時に、後悔したくないから。	がん患者の家族
早い方がよい	がん患者の家族
気持ちに余裕ができると思うから。	看護師
大まかな自分への治療の選擇の流れを想像しておきたいので	看護師
治療は後戻りできないから	看護師
最初から自分の治療方法を考えたい	看護師
いつも情報に触れて有益な情報をモニターしておきたい。	看護師
治療の選択肢が増えるから	看護師
色々な情報を知っておきたい	看護師
複数の選択肢を知りたいから。	看護師
がんの治療方法の選擇して、情緒として知りたいです。	看護師
選択肢として	看護師
色々な選擇視を考慮したい	看護師
選択肢としての情報捉えることができる。	看護師
治験が進められている薬については治療の選択肢のひとつと考えているから。ただし、治験のことがよくわかっていない面もあり内容によっては選択肢のひとつといえないこともあるかもしれない。	看護師
選択肢の情報として欲しい	看護師
早く情報はほしいから	看護師
残された時間を生き抜きたいから。	看護師
治療の選擇は自分で納得してしたい	看護師
治療選擇のため	看護師
できるだけよい治療を受けたいから	看護師
段階を踏んでうきうちに、体力がなくなる	看護師
自身の治療に関する情報を早期に知っておきたいため(将来の不確実さに対する不安を和らげることができると思うため)	看護師
判断するために	看護師
個人の性格によるが、現在における治療の全体像を知りたいため。	看護師
最初の段階から情報をもらっていないと、インフォームドコンセントにならないから。	看護師
自分の人生だから	看護師
治療の選択肢は初めから多い方がよいと思います。	看護師
早く対応したい	看護師
患者には自分であらゆる選択肢の中から治療を選ぶ権利がある。	看護師
全てのシナリオを把握しておきたい	看護師
情報は早期に提供されるべきものだと思うから。	看護師
選択肢が増えるから	看護師
残された時間 時間の過ごし方を考え 残された時間を有意義に過ごすため	看護師
まずは日本におけるすべての治療を行ってから、と思うため(私の性格上一度にたくさんの選択肢を与えられると選べなくなる場合があるので)	看護師

選択肢を増やしたい	看護師
選択肢がひろがる	看護師
治療手段がなくなってからその情報をもらっても前向きに考えられない	看護師
選択肢を増やすため	看護師
診断を受けた時点で、自分が受けることができる治療法に関する情報は理解したうえで、今出来る治療法を選択したいから。また、次に出来る治療があると思えることは希望にもなり、今出来る治療が出来なくなったときにでも直ぐに対応することが出来ると思うから。	看護師
治療選択は初めから自分自身で行うものだと思うし、治療に関する情報は治療前の段階で得ておくべきだから	看護師
最初の段階のほうに心がバイアスがかからないから。	看護師
自分の身体、自分の病気だから、治療もあらゆる選択肢の中から自分で決めたい	看護師
治療したいかは	看護師
病理検査を待つまでもなく、抗がん剤治療は決定的と思ったため	患者
出来るだけたくさん情報を入手してから治療法を決めたい	患者
ガンが進行して手遅れになる前に情報がほしい	患者
選択肢を提示されることが重要だと思うから	患者
治療選択肢が増えるから	患者
可能性	患者
治験は最初に抗がん剤開始前じゃないとダメなど、制約がありすぎるから。	患者
いろんな選択肢があると嬉しい	患者
自分の身体の事なので、自分で選択したい	患者
他の治療を受けたが為に、治験に参加出来ない可能性があるため、自身が一番望んでいる治療を受ける為にも。	患者
どこに行けば、どこを見れば治験の情報が得られるのかは、治療の初期から教えてもらいたい	患者
より良い治療法を、自分で選択したいから。	患者
あらゆる選択肢の中から治療法を決めたい	患者
自己責任であっても効果の高いと思われる治療を選択出来る方が良いと思う。	患者
先の見立ての選択肢が多いほうが良いから	患者
常に新しい情報を得ていたいから。	患者
治療を始めるときがベストなタイミングだと思うから。	患者
選択肢は多い方がいいと思うから	患者
治療の選択肢を増やしたい	患者
当初から選択肢としたい	患者
知識や選択肢の手段になるので	患者
選択肢の一つとして考えられるから	患者
転移と原発を共に手術して無くなっています。血液検査も術前後も全く正常でした。ステージ4ながら、全く癌患者の感覚がないので、余計に色々な情報を探っています。	患者
できるだけ早い方がいいから	患者
最初から全部の可能性を知りたいから。たとえ選択しなくても知っておきたい。	患者
初体験なのでわからない。	患者
治験による危険性が心配。	患者
最初の治療からあらゆる選択肢を検討し、納得して決めたいので早い段階で情報が欲しい。もっと早く知っていたら・・・ということが無いようにしたい。	患者
治療の選択は最初の段階で説明を受けるべきだと思う	患者
最終手段があるかどうかを知りたいから	患者
手遅れになる前にいろんな選択肢を知りたい	患者
耐性後の治療方法を考える為	患者
自分にとって最適と思われる治療を選択したいから	患者
データが少ない	患者
選択肢の一つとして提示されると治療に臨む気持ちがしっくりする	患者
後から言われて手遅れじゃ嫌だから	患者
転移、再発しやすく、完治しないものだからこそ欲しい。	患者
同じ患者でも、すでに使われている薬でも治験の人もいたのだから。価格が安いのであれば助かる。	患者
そしかならないと思います	患者

より良い治療を望むから	患者
より多くの選択肢がほしいから	患者
納得をした上で治療開始したいから	患者
標準治療の後で薬にもすがるといった状況ではなく、まだ体力や選択肢のある段階で受けたいと思うので	患者
色々な方法を最初から知りたいから	患者
情報は早く入手したい	患者
治療のどの段階でも、治験に参加する可能性があるから。	患者
精神的に落ち着いて選択したい。	患者
早めに今後ある選択肢はしておきたい	患者
情報は知っておきたいから	患者
治療に多くの選択肢があるなら納得して選びたいから	患者
早いほど、選択肢が多いので。	患者
患者それぞれに選択権を任せてほしい。それぞれ考え方が異なるため。	患者
選択肢のひとつと思うから	患者
標準治療と比べて自分に効果がありそうかを検討したいから。場合によっては取り入れたいから。	患者
情報は全て知りたいので	患者
保険診療では選択肢が狭すぎる	患者
自分の治療のことは、できる限りの選択肢を知っておきたい	患者
早いうちにいろいろな情報は知っていた方がいい	患者
あらゆる治療法の1つとして提示されるならば、最初に全て提示してもらい、何かがその時に適切な治療法か医師の意見を聞きながら検討する必要があると思うから	患者
全ての選択しの中から選びたい	患者
治療法の選択肢を広げたいので	患者
最終判断は医師などと総合的にするのだが、情報としてはすべて知っておきたいから	患者
情報の出すタイミングは計られるものではない。いつでも開示されているものという理解	患者
治療についてのあらゆる可能性を知っていたいから	患者
治療は一度きりかもしれないから	患者
むしろいつでも聞きたい	患者
命にかかわることだから。	患者
常に自分で選択したい	患者
選択できる治療方法を知り、余裕を持って勉強し必要な時に自分自身で判断したい。	患者
自分の治療を進めていく上で、可能な限り多くの選択肢を理解して、ドクターの考えを伺いながら相談したいと思います。	患者
時間を無駄にしたくない	患者
自分で治療法を選択したいから	患者
選択肢が一つでも多ければ心に余裕ができる。	患者
自分がフェアな選択をできる状態であれば、選択肢は多い方がよいと思うので。	患者
治療の選択肢は多い方がよいから	患者
最初の治療の時だと比較的まだ元気で、考える余裕もあり調べることもできる。最終手段として治験をとらえることはしたくない。	患者
常に最新の情報を持っていきたいので。	患者
治療の選択肢の一つとして知りたい	患者
さまざまな情報の中から選択がしたい。	患者
個々の考え次第ではあるが、自ら向き合い、乗り越える病であり、その治療選択の判断を患者に委ねられる傾向も一般的であるため、初手から情報は得るべきであると考えている。	患者
初めから可能な限りの治療法を知りたいので。	患者
実際の治療は手術も含め、まるでベルトコンベヤーに乗ったようにどんどん進んでいってしまうもの。渦中にいる時は余裕もなく、ただ流されてそんなものだと思っていた。少し落ち着いてくると、他にも選択肢があったのではないかと思ったりもする。選択肢は多い方がいいと思うので。	患者
いろいろな治療方法をみて決めたいから	患者

生死に関わる場合もあるのだから、治療法も含めて自分で選択して決めたい	患者
「あとは治験しかない」と言われたとしたら、恐怖に感じるため。あらかじめ知る事はそこまでプレッシャーにはならない。	患者
治療当初に選択しの1つとして検討対象にすることは有意義で有ると考えるから。標準治療は終わった後では体力、健康状態により臨床試験を受けることが困難な状況になる可能性が有るため。	患者
一番悩む時だから	患者
選択肢が増えるため	患者
選択肢の一つとして考えたい。	患者
最良の治療が受けたいから	患者
選択肢は多いほうがよい	患者
選択肢はたくさんあったほうがよい。今の標準治療が最善とは思わないから。	患者
選択肢は最初から広い方が良い	患者
選択肢の一つとしたい	患者
複数の治療の選択肢となるから	患者
初発時は大変不安や恐怖が多いので情報が欲しい	患者
その都度情報を探していたのでは間に合わなくなる可能性があるから。	患者
ギリギリで選択肢が増えるより、理解し判断するまでの時間に猶予があった方が良い。	患者
出来るだけストレスの少ない状態で最新の良い治療を受けたい	患者
手遅れにならない段階で数多くの選択肢が欲しい	患者
治療の選択肢を広げる。あとからそういう治療もあったと後悔しないため。	患者
自分が手術を受ける前に治験に情報が知りたいなと思っていたから。	患者
一括にまとめられた情報にいつでもアクセスできる状態にあればいい	患者
最初の術後の治療が重要だと言われているから。	患者
治療の選択肢	患者
いつでも準備するため	患者
それがなくて、後で知って大変なショックを受けている人を多く知っているから	患者
一般的に知っている情報ではないので、大きな病気に罹ったら最初のドクターの指示通りになってしまうため、選択肢があるといい。	患者
選択肢は多いほうが良いと思う。選択方法により、その後の治療の可能性が消えることもあると思うから	患者
治療方法がいろいろあるならば、一つでも多くの情報を早い段階で知りたいから。	患者
選択肢は多い方がいいと思うから。	患者
選択肢を増やしたい為	患者
治療の選択肢はスタート時点から多い方が良い	患者
先の見通しを持てると安心できる	患者
医師に任せずに随時治療法の選択を主導的にしていきたい	患者
治療の選択肢の幅を広げられるので。	患者
まず医師から提案された治療をするにあたって、治験の情報が少しでもあれば、医師からの治療をしながらも治験内容について詳しく調べられ、選択肢として考える時間もとれるため	患者
どれだけの可能性があるかを把握しておきたい	患者
最良の治療を受けて病気と向き合うには早いほど良いと思います。	患者
選択肢を広く、深く知り、理解し後悔しないため	患者
自分で治療の勉強ができ、自分が納得できる手段、方法、治療の順序を選択できるので。	患者
標準治療以外の治療の選択肢もたくさんほしいので	患者
治療の選択肢としたい	患者
選択肢が増えるから。	患者
診断時は標準治療を選択すると思うが、情報は得ておきたい。	患者
治療の選択肢として考えたいから。	患者
1つでも多くの選択肢があったほうが良いと考えるため。	患者
治療の最初の段階で自らの意思で治療方法を選択したいから。	患者
最初に選択する時は大事。私は、期間が長いので、途中の情報が欲しい。	患者
アメリカでうけれる	患者
too lateにならないように	患者
選択肢として、考えたい。知らなければわからないから。	患者

そのときにどういう治療法があるか知ることで今後役に立てるから	患者
治療初期の段階から、従来治療方法を含めた選択肢の一つとして検討するため。	患者
早い段階で選択肢はあった方がいい	患者
ガンは待ってくれない。情報収集の遅れは命取り	患者
できる限り多くの選択肢を最初の段階で欲しいから。	患者
前問の回答と同じ。治療選択は全て知った上で、自分で考えて選びたいから。	患者
情報=選択肢は多い方が良く考えるから	患者
標準治療が終了と宣告？された時点で右往左往して正しい(自分に合った治療法)次の治療を選択できない。	患者
他の方法がなくなった時点では遅い。	患者
最初から自分でも治療法を考えたい	患者
いろいろな治療の選択肢が欲しい為	患者
知ったうえで治療を選択したい	患者
早く選択の道を広げておきたい。	患者
選択肢は全て知りたい	患者
治療(治験を含み)の選択に限らず詳細は早く知ること考える時間を少しでも長くとり備えたい。	患者
治療法の1つとして選択する可能性がある	患者
あとから知って後悔したくないから。	患者
治験がある事をしらなかった	患者
免疫療法などは抗がん剤を行った後だと効果が発揮できない場合もあるので。	患者
治療の選択肢が増えると思う	患者
治療法の1つとして選択肢が増えるので	患者
選択肢を増やしたいから	患者
始めから情報があるに越したことはない。選択肢は多い方がいいし、良い面も悪い面も知っておきたい。	患者
無駄な治療で時間を失いたくないので。	患者
その時点での最良の治療法を自らの意志で選択したいから	患者
病期に関係なく治験を得るチャンスが皆にあれば、治験に抱くようなイメージが変わるのではないのでしょうか？	患者
せ	患者
治療の可能性および選択について、医師の助言を聞いた上で判断材料にしたいと考えるため。	患者
自分にとって有益な試験があるかもしれないので。選択肢が増えることが望ましい。	患者
治療法について知っておきたいから	患者
選択	患者
早い段階が重要だと思う	患者
治験によって受けられる条件が様々なので、最初の段階で情報を知っているほうがよいと思う	患者
一度ほかの治療法を始めてしまったら、治験に参加するタイミングがつかみにくくなるから	患者
選択肢は最初からあった方がいいと思うから	患者
治療の選択肢を広げていから	患者
治療に行き詰まってから薦められるより早い段階で治療の選択肢が欲しいから。	患者
多くの選択肢があったほうが、選べて後悔しない選択ができるような気がするから。	患者
早ければ選択肢が増えるから	患者
治療方針は患者自身が納得して選択、確定したいから。医師のいいなりの治療は納得できないから。	患者
選択肢は多い方が良くから。	患者
選択肢は多い方が良く	患者
癌と診断された時点、不安な生活が始まったので新しい情報は直ぐに把握したかったです	患者
選択肢として念頭に置いて治療を受けたい	患者
ある程度先のことが考えられるから。	患者

選択肢が増える	患者
治療法がなくなってからだと、プロコンの評価が客観的に見られない	患者
選択範囲が広がる	患者
自分が治療のどの位置にいるのか知りたい	患者
色々な方法から納得行く選択をしたい。した経験がある。	患者
治療の選択ができる	患者
お仕着せのフルコース治療を受けるより、自分で治療法を選びたい	患者
選択出来る情報がほしい	患者
治験の条件が色々あるので、全体の戦略を俯瞰しつつ治療を決めるのが理想	患者
タイミングに関わらず、情報を容易に得ることができるとよいと思います。	患者
選べるうちに知りたい	患者
早ければ早いほど良いから	患者
治験を利用するか否かは本人が決めることなので、少しでも選択肢の多い初期の段階で患者自身が自由に選択できるべきである。	患者
自分の命に関わる	患者
最初の治療が勝負。	患者
どのような治療があるのか早めに知りたいから	患者
新しい治療を試してみたい	患者
初期治療はガイドライン通りでいいと思いますが、セカンド、サードと進んだ時に情報があるとまだ治療法があるかもという「希望」になるからです。	患者
何があるかわからないから	患者
選択肢がたくさんある上での一つの情報として知りたい	患者
早い方がよさそう	患者
臨床試験中の薬が一番効果的なのであれば、最初から使いたい。	患者
情報入手は早いほうが安心する	患者
治療に対する先行きがわかると思うから	患者
選択肢がたくさんあったほうが良いから	患者
治験とは何であるかの情報を予め知りたい	患者
手術も術後抗がん剤も、情報が限られていて、選択肢があまりなかったので、選択肢が増えることはいいことだと考えるから。	患者
選択肢を増やすため。	患者
治療が進んだ後では、体力面に不安があるから	患者
情報や選択肢は早いほど良いと思う。私は手術入院したまま、「悪性だったから」抗がん剤治療」とまるで選択肢がないような言い方を医師からされ、自分でスマホを持っていたからネットで情報や治療など入院先のベッドで調べることができたから良かったが、それでも不安だった。	患者
すでに情報は多いのでいつでも同じだが、はやいに越したことはない	患者
自分の命を守るからだから。専門家が知りうる全ての情報を知らせてもらい、主治医と相談しながら、自分の意思で治療法を選びたい。医師の判断だけで、知る機会を奪われるのは嫌。自分の力だけで、診断を受けて混乱している時に、全ての情報を集めるのは無理だから、医師から話があると助かる。	患者
選択肢を増やしたい	患者
選択肢の1つとして情報提供して欲しい。また、その医師がどのくらい患者や病気と誠実に向き合える方なのかの判断材料にもなると思う。	患者
初めのタイミングから選択肢として知っておきたい。	患者
最先端の治療を早期に受けたいと思うから。	患者
最初は標準治療しか教えてもらえなかった、先進医療はエビデンスがない事を理由に教えてもらえなかった	患者
選択肢が無かったので	患者
最後に行われることが多いから	患者
どんな治療の選択肢が可能なのか、わかり得るタイミングでわかるだけ知りたいから。	患者
初動が大切だと思うから	患者
治療をある程度行ってからだと、手遅れの気がする。	患者
最新の治療法が受けたいから	患者
今や治療法は患者が決めることを迫られている状況。治験も含めて情報が欲しい。	患者
治療の一つなら選択肢として選びたい	患者

可能性はなんでも知っておきたい。選択肢があることが安心感に繋がる	患者
情報は隠さずに話して欲しい。やるかやらないかは本人の選択である	患者
あとから知っても意味がない。初めから選択肢に入れておきたい。	患者
全く聞かないから	患者
最初から情報があれば、自分なりに調べることもできるし、余裕が産まれるはずだから。	患者
情報は早く欲しいから。	患者
以降の治療に確信が必要	患者
自分の命を守る為に選択肢が欲しい。	患者
選択肢として提示して欲しいから	患者
幅広く自分に合った治療法を選択したい	患者
事態が切迫してからだと判断が遅れるから	患者
選択肢がいろいろあったほうが良いから	患者
選択肢が欲しいから	患者
多様な治療手段を考えたいから	患者
臨床試験は、治療の選択肢の一つとなりうると思うため	患者・CRC
該当しない場合も多いが、情報として知っておきたい	患者・CRO勤務
まずは標準治療を選択すべきで、標準治療が奏功しない場合に選択すべき、とは思いますが、やはり、場合によっては、希望に合った標準治療がないときに、選択肢としてあってもいいと思うので。	患者・CRO勤務
幅広い情報は欲しい。また治療初めてから聞くと迷いを生じる気がする	患者・製薬企業勤務
今最新の治験を含めた治療を、現在承認されている治療と合わせた判断を医師から相談を受けて選べる意味は大きいはず。	患者・製薬企業勤務
常に新しい正確な情報を入手して、そのうえで治療を選択したいから。	患者・製薬企業勤務
選択肢は多く知っておきたいので	患者・製薬企業勤務
信頼性のある情報は手に入る限り、知っておきたいから	製薬企業勤務
受ける治療により、試験の除外基準に抵触することがあるから	製薬企業勤務
さまざまな選択肢があったほうが長期にわたっての治療計画を立てやすいから	製薬企業勤務
治験によっては1stラインの治験も多いから。	製薬企業勤務
Late lineの治験薬の場合、前治療が規定されているケースが多いため	製薬企業勤務
標準治療を含めて、幅広く治療方針を検討したい	製薬企業勤務
選択肢を拡げたいから。	製薬企業勤務
多くの治療の選択肢から治療方針を選択したいから	製薬企業勤務
治験に参加することで最善の治療を受けられる可能性があるし、費用負担も軽減できるので、自分が対象となりうる治験があるならば標準治療と一緒に示していただきたい。	製薬企業勤務
後からその治療法の情報を得た時に「受けたい」と思っても、既にその治療を既に受けられない状態になってしまっていることがある。よって、最初に全ての選択肢を知り、自分で選んだ治療法で進めていきたいため。	製薬企業勤務
段階に応じた最も適切な治療を受けたいので、選択肢が多い方がよいから。	製薬企業勤務
既治療も治験もどれも選択肢の1つだから	製薬企業勤務
治療選択肢はいくつあっても良いと思うから	製薬企業勤務
色んな選択肢があることを早い段階で知りたいから	製薬企業勤務
初期治療がその後の再発に影響する可能性もあるため。	製薬企業勤務
治験にも様々な種類があるため、早い段階から知っておくことが効果や経済面も含めた多くの選択肢を持つことができるため。	製薬企業勤務
可能な限り、患者自身が治療法を勉強し、自らが納得できる治療を選択すべきだと思うから。がんを告知された時点で、治験も含めて情報を知りたいと思ったから。で	製薬企業勤務
新しい治療を受けるチャンスになるから	製薬企業勤務
すべての情報を知ったうえで治療選択を自分自身で決定したい	製薬企業勤務
自分にどんな治療法が残されているのかは予め知っておきたい。	製薬企業勤務
最初から選択肢を理解しておきたいため。	製薬企業勤務
選択肢は多い方が良いと考えるため	製薬企業勤務
受けられる機会を逃したくないので。	製薬企業勤務
抗がん剤の進め方で治療効果も違うので。他の治療があるのかも含めて考えたい	製薬企業勤務
選択肢の一つとして、情報が入手できるのであれば、都度、ほしい。	製薬企業勤務

自分の治療の全体像を知りたいため	製薬企業勤務
海外の治療情報も含め情報を精査し、1st lineとして有望な可能性があるのかも検討したい	製薬企業勤務
いつでも治療を選択できるよう早い段階で選択肢をもらっておきたい。	製薬企業勤務
疾患にもよるが、一次治療で効果が期待される薬剤があるため	製薬企業勤務
早くから知りたい	製薬企業勤務
早い方が後悔しない	製薬企業勤務
注目している開発薬剤の治療には参加したいから	製薬企業勤務
最初から治療選択肢になりうる情報を知っておきたい	製薬企業勤務
治療を行ってからでは受けられない治療もあるため。	製薬企業勤務
治療(未承認)なのか臨床試験なのか不明な設問が多く回答に途感います。	製薬企業勤務
色んな可能性を探りたいため	製薬企業勤務
治療選択肢の一つとして検討したいため	製薬企業勤務
治療戦略をたてる上で最初に必要な情報と考えるため。もちろん、最初の治療を治療薬に頼るといことはほぼないであろうから、まずは既存の治療法から選択することになるとは思います。	製薬企業勤務
早い段階で入手できればどのタイミングで治療に参加するか選べるため。	製薬企業勤務
例えば、未承認であっても非常にpromisingなPIIIに参加できる可能性もあるため、診断後早期の情報入手が望ましい。	製薬企業勤務
早めに知る事で先々のことを考えられるから	製薬企業勤務
各種治療のベストな時期及び組み合わせの一つとして検討したい	製薬企業勤務
自分自身で、治療選択に納得したいため	製薬企業勤務
最新の治療の機会が得られる可能性があるから。	製薬企業勤務
選択肢を早めに広げたい。	製薬企業勤務
知識としては多い方が良いと思うため	製薬企業勤務
治療選択肢の一つとして検討したいから	製薬企業勤務
選択肢は多い方が良いから。	製薬企業勤務
既存の治療薬といっても、提案される治療方針の選択肢は担当医師の裁量に任されている。選択肢を広くしたうえで自分でも納得したうえで自己判断したい。	製薬企業勤務
最初の治療で効果がなかった時の選択肢を考えることができる	製薬企業勤務
選択肢は最初に知っておきたい。考える時間がほしいのと、最初の治療がだめでも次があるという希望を持ちたいため。	製薬企業勤務
再発した場合なども含め、今後どのような状況になるか知りたいので。	製薬企業勤務
今後の治療計画を検討する上で必要な情報と考えるため	製薬企業勤務
生命に関わることなので、始めから自分の望む生き方に合った治療法を選択したいから。	製薬企業勤務
すべての選択肢を最初から自分も把握した上で、医師と治療について相談したいから	製薬企業勤務
どのように治療していくかを考えるには、選択肢が多い方がいい	製薬企業勤務
治療選択の可能性を最大限に知りたいため	製薬企業勤務
初発でしか受けられない治療もあるから	製薬企業勤務
すでに治療してしまうと選択肢が少なくなるため。	製薬企業勤務
選択肢を多く持ちたいため	製薬企業勤務
選択肢は多ければ迷いが生じるかもしれないが、自分自身で決定したい	製薬企業勤務
あらゆる可能性の情報を得た上で判断したい	製薬企業勤務
最善の判断を行いたい	製薬企業勤務
治療を行う前に、どんな治療法があるかを知って、治療法を選択したい。	製薬企業勤務
評価するのに時間がかかるから	製薬企業勤務
自分が罹患したがんに対してどのような治療が動いているのか知りたいため	製薬企業勤務
治療全体に納得して、人生を決めたいから。	製薬企業勤務
可能性は知っておきたいので	製薬企業勤務
ステージ、進行度、がんの種類にもよるが、いわゆる標準治療が万能であるとは限らないから。	製薬企業勤務
治療選択肢をたくさんほしい	製薬企業勤務
選択肢は多いほうがよいから	製薬企業勤務
できる限り自分の判断で治療に関わりたいため。	製薬企業勤務
早期から治療参加も考えたい	製薬企業勤務
治療戦略を立てられる。	製薬企業勤務

早いうちからいろんな選択肢を知りたい。	製薬企業勤務
病気の重大さを考え、時機を逸さないため	製薬企業勤務
治療の選択肢の一つとしたいので	製薬企業勤務
自分でも選択したいから	製薬企業勤務
選択肢は一応全て理解した上で医師と話しあいたい	製薬企業勤務
早ければ早い方が、選択肢が広がるため	製薬企業勤務
最終手段としても、治療の判断材料として治験情報ももっておきたい	製薬企業勤務
効果的な治験薬の試験であっても、前治療によってはスクリーニングで落とされる可能性があるため。	製薬企業勤務
一つでも多くの最善な治療法を見つけたいから。	製薬企業勤務
がんの治療は時間との勝負という側面もあると思うので、治験であるとしても有効な治療方法があるならば早めに知りたいから、有効な治療方法が治験た	薬剤師
最善の治療技術を把握しておきたい。	薬剤師
はじめから情報があつた方が良い	薬剤師
どんな情報でも初めから知っておきたい	薬剤師
検討する時間を出来るだけ欲しい	薬剤師
治療の見通しを聞く時に、今後開発されるかも知れない薬についても知った方が良い。	薬剤師
治療の選択肢を増やしたい	薬剤師
知った時にはできない方法だったら嫌なので	薬剤師
治療初期から情報が欲しい	薬剤師
選択肢の一つとして	薬剤師
治療の選択の仕方が変わると思うので、最初にほしい	薬剤師

承認されている薬での治療法が無くなったとき

	立場
現時点での標準治療が優先すると思う。	薬剤師
最後の希望として。	薬剤師
選択肢がなければ、医学に最後は貢献したい	薬剤師
基本的には承認されている薬剤(有効性・安全性が確認されている)で治療を行い、その他の選択肢が無くなった場合に情報を欲しいと考える。	薬剤師
治療を進めたいと感じているなら	薬剤師
標準治療が終了し、新しい薬の治験が可能	製薬企業勤務
まずは承認されている治療薬で治療を行いたいから	製薬企業勤務
最後の選択肢として期待したいため。	製薬企業勤務
承認されている薬があれば、それが第一選択だと思うから	製薬企業勤務
選択肢は多い方が良い	製薬企業勤務
治療効果について、開発中の「薬剤の効果」「副作用当」についての説明が少ない。	製薬企業勤務
最初の治療は既にリスクベネフィットがある程度検証されている治療法のうち最良と思う治療を受けたいため。	製薬企業勤務
リスクを伴うので、打つ手がなくなってから考えたい	製薬企業勤務
がんの治療法は日進月歩のため	製薬企業勤務
がん種によるが、承認されている薬での効果が期待できない場合は最初から希望する	製薬企業勤務
治験はあくまで治療法がない場合の選択肢の一つと考えているため	製薬企業勤務
ファーストチョイスは認可された医薬品であるべきだと考えるため	製薬企業勤務
有効性・安全性が確認されている治療を優先したい。	患者・製薬企業勤務
はじめは標準治療がいいと思うので	患者
再発時に治療の選択肢として知りたい	患者
検討してみたい	患者
治験は生きる望みをかけた最後の治療でもあると思うから。まずは承認されている薬を。	患者
希望になる	患者
既存の安全な物で済むならそれで良いと思う	患者

現在、すでに治療をしているため。診断後すぐであればその時に情報が欲しかったかもしれない。	患者
確立された治療法が自分に適応すると考えられるなら、最初は標準治療で。	患者
もし今の時点でどうしようもないことが分かっているならば最初から治験でもいいですが、最初は知識もあまりないし、まずは標準治療からのほうが安心かと思えます。	患者
標準治療法では限界だから	患者
治療を進める上で希望を持つことが大切だから	患者
初発治療中に治験情報はいらぬし、そのタイミングで入手しても混乱するだけだと思います。一部の患者さんの主張は、お気持ちは分かりますがナンセンスだと私は思います。日本ではまずは標準治療をやってみることが現時点では最善だと思います。	患者
私自身の考えです。	患者
未承認薬ではない以上、効果や副作用が未知のため、ほかに有効な手段があればそちらから使用したい	患者
安全な治療からスタートしたい。	患者
まずは既存の治療を試すことが安全でしょう	患者
薬がないから	患者
できる限り標準治療を行い、それがなくなったときに臨床試験を受けたい	患者
できるだけ、承認されている薬での治療をしたいが、もう無理だとわかった時、試したいから。	患者
現在その状況にあるため	患者
エビデンスの実証が少ないから	患者
まずはエビデンスのある標準の薬物療法を受けたいから	患者
標準療法はある程度信用できる	患者
後がないから	患者
効かなくなったときの、選択肢として使いたいから。	患者
全てのがん患者には標準治療を受けさせたい。標準治療がその時のベストな治療だと考える。	患者
可能な範囲で、実績のある薬を使いたい	患者
まず標準治療を受けたい	患者
治療法がないと不安になる。	患者
まずは承認されている薬から治療したいので。	患者
承認されていない薬を自分の病状や治療法などしっかり把握できていない初期段階で提示されても冷静に正常な判断ができるか分からないため	患者
がんサバイバーにとって、「使用できるお薬が無い」と先生に告げられることほど最悪なことはない	患者
選択肢の1つだからこそ、試してみたい気持ち。	患者
他に希望を見出せないから	患者
少しでも治療して共存したい。	患者
ガイドライン上の標準治療ができるうちは標準治療を希望する。治験は賭けのイメージがあり、最後の頼みの綱という感じがしている。	患者
初めから治験に参加するのは抵抗がある	患者
可能性があるならば	患者
どうしても直したいしもしダメでも社会貢献の為	患者
無くなる前に早めに欲しい	患者
まずは標準治療でできるところまで治療を行っていきたいです。	患者
再発してからでもよいから	患者
薬をもすぐる思い	患者
治験は受けたことはありませんが、受けた方からそう聞きました。	患者
未知の治療を知りたい	患者
最期の手段なので	患者
標準治療がある場合は不要	患者
プラセボが怖い	患者
治療の選択肢ができるから	患者
治験に望んで可能性を求められるなら、患者の不安を取り除けると思うから	患者
治験が未承認薬について行われることと、再発治療を対象とする場合が多いため。	患者

今はまだ薬が効いているから。手段がなくなれば、やはり新たな治療をしたいと思う	患者
治療の選択肢を増やしたい	患者
最後の幾つかの方法の中の一つだと思うので。	患者
新治療法になる事を期待して	患者
治療の選択肢を増やしたいから	患者
承認治療で万策尽き、死への道しか無くなったのなら、治験に貢献してみたい。	患者
やはり人体実験と思う気持は否めません。最後の手段です。	患者
現在の治療法で良好な結果が出ているから	患者
まずは標準治療を受けたいと思うため	患者
がんが発覚した当初は心余裕がなく、情報を理解しにくい、ある程度治療をしていく過程で治験情報を知ることとはとても有用だと考える。	患者
まずは基本的な標準治療を受けたい	患者
どうせ長くないのであれば、社会に貢献そして上手くいけば儲けもの	患者
診断を受けた時はどういう治療があるか分からないので、段々治療法が少なくなった時に欲しい	患者
ガイドラインのエビデンスを信じたいから。	患者
やはりそれなりの効果を期待したいから	患者
新しい治療の可能性があるので	患者
すい臓がんの抗がん剤は種類が少ない	患者
最後の手段だから。	患者
寛解の可能性、生存への望みを持ちたいから	患者
(上記には適切な選択肢がありません。)少なくとも、承認薬での治療法が無くなる前に、いろいろな治験情報が得られていることが精神的にも必要意である。	患者
治療難民になりたくない	患者
最初は標準治療を受けたい。情報を教えてくれる医師とそうでない医師もいると思うので、医師まかせにはしたくない。	患者
次の選択肢	患者
安全性、危険性を理解したうえで承認されている薬でまず治療を受け、その後治験を考えたい	患者
まずは標準治療、と思うから	患者
現状維持を中心にしたい	患者
少しでも苦しまずに長く生きたい。Dr.だけに頼らず自分で選択したい。	患者
他に承認されている治療がなくなればもちろん知りたい	患者
がんに罹患し、治療を開始する場合は、自身の体験ですが、医療従事者ですが、最初に告知、標準治療を受ける時期は迷うことも多く、いい加減な情報などにも目が行くことがありました。まずは標準治療の説明をしっかりと聞き、きちんと消化するべきですが、最初は時間がかかると思います。治療して副作用や悪化、再発などの時に、提示してもらうのが良いと思います。これと別に、最新の情報が載っているサイトなどがあり、社会に周知されていると、誰でも情報を得ることができるので、あるといいなと思います。拠点病院のがん相談窓口などに最新情報のパンフなどが国内ばらつきなく、常時更新され置いてあるといいのではないのでしょうか？	患者
出来る限り既存の効果的な方法を試したい	患者
がんの種類にもよるだろうが、初発の治療は実績のある治療が望ましいと思うから。	患者
り患しているがんが 難治癌ではなく 乳がんだからだとおもう	患者
まずは標準治療からと思います。	患者
治療法が無くなった時というのは、絶望的な気持ちになる気がする。	患者
標準治療を経て、手の数がなくなったときに検討するもののひとつになっている	患者
治療方法を少しでも多く知りたい	患者
現在の薬は良く効いた	患者
標準治療は先に受け、それでも完治が厳しい時には頼りたい	患者
現時点でそうだから。	患者
ある程度治療法が確立されている場合にはいきなり治験からスタートする必要はないと考えるから。	患者

手術や既存の薬でなんとかなるなら、まずはそれから。でも、最終手段にまではせずに、体調にあわせたよいタイミングで選べたらいいと思う。	患者
他の治療法で良くなるのなら受けてみたい	患者
基本的には標準治療を行いたいの	患者
必要になるから	患者
生きたいと言う気持ちを捨てたくないから。	患者
治療がなくなった場合だけでなく、QOL向上のため	患者
確立されている治療を最大限したいから。	患者
安全性の面から考えて、標準治療で効果が無くなった時に欲しい。	患者
望みをつなげたいから	患者
出来る事があるならなんでもやりたいから	患者
標準治療をまず受けてから考えたい	患者
承認済みの薬剤から使いたと思います。	看護師
選択するのは、標準治療を受けてからになると思うから。	看護師
標準治療でいいと思っているから。	看護師
治療法が無くなっても、自分がまだ生きていかなければならない時なら、治験の情報欲しい。	看護師
希望を持ちながら生きていきたいと思う。	看護師
既存の治療法で治療可能な場合は、エビデンスが確立されている通常診療を優先させたいからで、もしもその選択肢がないのであれば、治験を検討したいと思うからです。	看護師
効果を期待したい。	看護師
一つの治療選択肢として説明して欲しい	看護師
治療の為の情報が多い方がいいと思う。	看護師
残された治療がないから	看護師
基本は保険適応のある標準治療を受けたいが、手だてが無くなった場合に必要だと思うから	看護師
あくまでも、第一選択ではないと思うから。	看護師
ガイドラインにのっとった治療法がある場合はそちらを優先すべき	看護師
まずは、今現在有効な治療を受けるのが、良いと思うので。治験はその後の選択となる。	がん患者の家族
薬は怖いから	がん患者の家族
1つ前の質問への回答と同じ理由です。	がん患者の家族
選択肢が多い段階で知っても迷ってしまうかもしれないので、選択肢がほとんどない状態になってからで良い気がする。	がん患者の家族
望みをつなげたいので	がん患者の家族
「安全」と「最先端」を天秤にかけると、「安全」が優先する	がん患者の家族
既存の手法で良いのなら、その方が自身に不安と負担がないので。	がん患者の家族
最初から治験は、勇気がいると思います。	がん患者の家族
安全性も有効性もわからない段階の治療に踏み切るのはいやなので。	がん患者の家族
標準治療で治癒の可能性が無くなった時点で。	がん患者の家族
なんとか 病気を退治したい	がん患者の家族
とりあえず確実に効果のある治療をまずは受けたい	がん患者の家族
やはり治験に対しては怖さがあるから。	がん患者の家族
なんとなくです	がん患者の家族
医師に相談しながら自分で決めたい	がん患者の家族
承認されている薬は効果が立証されているから	がん患者の家族
いきなり治験を選択し、その薬が効かなかったときに、承認されている薬を選択していれば効いたかもしれないと後悔しそう。	がん患者の家族
まずは承認されている薬から始めたいから	がん患者の家族
何が自分の体に合っているか分からないので 治験で治るかもしれないという希望が持てるので	がん患者の家族
今ある治療法で十分なら それでいいので。	がん患者の家族
他に方法がなくなったら試したい	がん患者の家族
そうになったら仕方ないから	がん患者の家族
長く生きられるなら、使いたい	がん患者の家族
母が癌の時にそう思った	がん患者の家族
治療法がない時が、1番受け入れやすいから	がん患者の家族
標準治療を優先したいから。	がん患者の家族

もう他の治療法がなくて、どうしようもないのなら試す価値はあると思うし、実際試すと思う。	がん患者の家族
考える余地が欲しい	がん患者の家族
うちの息子は、白血病で再発したら治療法がないかもしれないので	がん患者の家族
最後の手段として	がん患者の家族
エビデンスのある治療をちゃんとしたと思えば医師を信頼できるから。逆に早い段階で治験の話をするとう心があるとおもってしまう。	医療従事者
まずはデータが出ているものから選択したい。	医療従事者
新たな治療法を探すため。	医療従事者
まずは標準治療を行うのがいいと考える	医療従事者
最初の治療はエビデンスが確立されているものがよい	医療従事者
まずは承認薬での治療を望むから	医療従事者
ガイドラインに沿った治療を希望するから	医療従事者
あくまでも試験段階なので。	医療従事者
あくまでも次善の策だから	医療従事者
治療法がなく、治る見通しも少ないのであれば今後のために役に立ちたいと思うから	一般
いきなりでは副作用などわからない部分が怖いから。	一般
それしかない段階になれば	一般
承認されている薬での治療の方が安全性が高いと思ったから。	一般
治験はあくまでも人体実験だから	一般
試せることは試したい	一般
医師の選択肢を広げ、治療の可能性にトライしたいから。	一般
承認されている治療でダメだった時の最終選択だから	一般
まずは保険で可能な範囲で行いたい	一般
最終手段だと思うから	一般
承認された薬が効かない時	一般
病状に合わせる	一般
医者を信頼しているから	一般
最後の砦	一般
最後の手段	一般
最終的な手段とは思わないが、エビデンスのある標準治療があるのなら、そちらをまず受けたいから	一般
まったく希望がないという状態よりかはかすかに希望でも生きる可能性を信じたいため	一般
確立された治療法を選択し、効果が認められない場合には治験という選択肢もある。	一般
常識的な線かと思う	医師・患者
まずは診療ガイドラインに沿って。治癒見込みがない時の希望になる	医師・患者
まずは標準治療を行うのがよいと考える	医師・患者
標準治療が有効な場合には、ひとまずそれを試してみる。情報が必要になった時点で治験情報がほしい。	医師・患者
その時点での情報を知りたいので。早すぎず遅すぎず	医師
現段階でエビデンスのある治療を全うすることが最も安全性が高いと思うから	医師
標準治療をやりきって、まだがん治療ができるのならばそういう情報が欲しくなると思います。	医師
標準治療があればそれを優先したい。	医師
保険診療を重視している。	医師
選択肢が多いと判断しにくくなる	医師
基本的には標準治療後はBSCを受けたいが、情報としては知っておきたいので。	医師
標準的な治療を優先する	医師
標準的治療を選択できない、しずらい時がメリットがある	医師
まずは安心できる治療を受けたい	CRO勤務

既存治療で効果が得られるのであれば、それが治療の第一選択肢となる。例えば、特定遺伝子に対して優位に作用する抗がん剤であれば、効果も期待できるであろう。一方、既存治療で効果がそれほど期待できない場合は、治験薬の情報からそのメカニズムや効果を理解し、その上で治療の選択肢となり得るかを担当医師のアドバイスと共に検討するのも良いと思われる。に検討する待できないできない	CRO勤務
承認されている薬のレジメンがGL通りにエビデンスがあることが必要、選択肢がなくなった段階で参加したい	CRO勤務
まずは確立された標準療法での根治を目指したいから	CRO勤務
基本的には標準的な治療を試すべきであるから	CRO勤務
まずは安全性が確立されている方法を希望する	CRC
とりあえずは今の段階で証明されている安全性や有効性のある薬剤を使用し、どうしてもなくなった場合に頼みの綱として情報がほしいと思うから。	CRC
安全性の面よりまずはデータのある既治療方法を選択したい	CRC
未知の重篤な副作用が不安であるから、最後の手段としたい。	CRC
最初の治療は、既にエビデンスがある方法で臨みたい。後で後悔したくないから。	CRC

情報を貰うタイミングは医師に任せたい

自分では判断しかねる	立場 薬剤師
標準治療の適応である場合に治験の情報を与えられてしまうと標準治療に対する信頼が揺らぐ気がするが、選択肢が無くなってからだと情報をしっかり整理する体力や気力がなくなっている気がする。	薬剤師
自身では適切な判断ができないと思うので(臨床試験の薬が自分の症状の合っているのかどうか)	製薬企業勤務
素人ではいくら情報があったとしても、判断ができないため。	製薬企業勤務
経験上	患者・CRO勤務
自分でわからない	患者・CRO勤務
まずは、標準治療を行なえる事がベストである。医師ならば、患者に標準治療及びベストな治療を勧めるのが当然だ。	患者・CRC
医師のほうが状況・状態が詳しくわかると思うから	患者
どんなデータを取りたいかは専門家が一番分かっていると思うから。	患者
今現在まで信頼できる医師に出会っているので医師が示してくれる治療法が最良だと思っているから	患者
自分の状態を判断してもらって治療法を決めたいから。	患者
医師が判断するには何か理由があるから	患者
まずは、主治医に相談	患者
最善の治療については医師の判断が必要	患者
自分では判断ができない	患者
もし治験が医師からすすめられたら、考えたい	患者
主治医を信頼しているので、主治医と相談しながら進めたい。	患者
癌腫、治験内容により、どのタイミングで使用する薬が異なるため、1stライン治療であれば最初から情報提供される方がよいと思うし、最終ライン治療であれば標準療法後の情報提供がよいと思う。	患者
治療法も年々変化しているだろうから随時欲しい	患者
治験情報そのものがわからない。	患者
まだ自分自身、治療法について把握しきれていないので。	患者
治験に安全性は、がん患者だけでは分からず、専門の医師や薬剤師などの医療関係者の話を聞いて判断したい	患者
治療の選択肢が残っていても効果が期待できるなら選びたい	患者
なんとなく	患者
もちはもちや	患者
できればセカンドラインとしての選択に含めたいので早めに欲しいと思うが、適した選択肢がなかったの	患者
治療初期では受け入れられないし、どの薬の効果が無くなってからでは遅い。医師からの絶妙なタイミングが望ましい。	患者
知識が無いので混乱は避けたい	患者

やはり適切な治療を受けたいと思うのが正直な気持ちです。母は治験をいくつもやりましたが、若かった私はモルモットと言う思いが拭えませんでした。しかし、いざ自分が病気になって思うことは、治験は希望だと思えます。そして、病気になって、治験を受ける事でそのデータが役に立つのであれば、そんな嬉しい事はありません。それが病気になった、たった一つのメリットだと思います。	患者
診断を受けて最初の治療選択時は知識も殆どなく、自分では決められない。専門家の考えや意見をもとに治療方針を考える(選択する)。患者と医師では言うまでもなく圧倒的に知識の差がありますので、今日現在の回答としては「わからない」に近いレベルで、専門家である医師(医療者)からの働きかけが、治験に参加する(しない)を選ぶ時にも大きな要素と考えるからです。	患者
必要性が出た時に専門医からの情報を的確に収集する。	患者
まずは標準の方法を選ぶべきと思いますが、病気の状態によっては初めから治験を考えても良いと思う。ただしその判断は素人では難しいのでそこは医師が判断することであろう。	患者
素人がいくら考えてもわからない	患者
自分では判断できないから	患者
主治医が自分に合うものを選んでくれると思うから	患者
自分の癌に合うかどうか判断できるのは医者であると思うから	患者
個人では難しい	患者
この様な情報取得は、医師が一番早いから	患者
プロの意見は尊重したい。	患者
自分では判断できないから	患者
自分ではよくわからない	患者
再発時に標準治療と合わせて、標準治療が奏功しないケースに備えるため、医師の適切な情報提供が必要	患者
主治医を信頼しているから	患者
どのタイミングがいいか自分では判断できない	患者
自分ではわからないから	患者
自分に残された治療法と治験に参加するタイミングは医師が分かると思う	患者
自分では、その治験に参加する優位性やタイミングがわからないため	患者
専門的な事は専門家にしか分からないと思うので。	患者
医学的な知識は専門家に任せたい	患者
新薬情報は医師が詳しいから。	患者
実際に必要になった時は、おそらく精神的にも過酷な状況なため、あまりに多くの選択肢を最初に示されても混乱してしまう気がします。私の場合では、そのあたりの精神面も見極めたくうえで医師から提示してもらいたいと思います。	患者
主治医を信頼しているので。自分の希望を伝えながら治療を受けてきたので。	患者
治験の条件等、自分が対象になるのか素人ではわからないことも多く、むやみに希望を持つことを避けたいからわからないことも多く、治験の対象ではない	患者
症状によって使うタイミングがあると思うから	患者
医師は医療の専門家だから。	患者
自分だと知識不足のため判断が出来ないから	患者
治療が終わっているのだから	患者
治療方針について信頼しているから	患者
専門家から適正な治療を紹介してほしいので	患者
判断が難しい	患者
無理な延命治療はしたくないが、開発の役に立つのは良いことかもしれないと思う	患者
医師に全幅の信頼を置いています。	患者
たくさんの情報の中から自分のケースに合うものの選択はプロの方がよくわかると思うので。	患者
患者が得ている情報は最終判断出来るほどの種類や程度を持っていない	患者
やはり医師が一番情報を持っていると思うから。	患者
治療法が無くなった段階では遅いと思うので、普段から主治医とそんな話はしていたい。	患者
臨床試験をどのタイミングで受けるのが良いかは医学知識の少ない患者には難しいから	患者
既に標準治療中であるから	患者

自分の病気の性質、進行度合い、体質に合わせて判断が必要だと思いますので、自分で判断するのは難しい	患者
知っておけば心の準備などできるので	患者
最初から言うと患者は混乱する。治験を前向きにとらえられる人もいればそうでない人もいる。しかし、治療法がなくなった時では遅い気がする。医師が、言える人、言えるタイミングを見極めて言う方が良い。	患者
情報不足	患者
主治医の選択を信頼しているから。	患者
医師と患者の情報には隔たりがあるし、やはり専門家の判断に期待したい	患者
医師におまかせかなど。全てどこまでの状況、段階なのかわからないため	看護師
タイミングは自分ではわからないため	看護師
情報の整理ができる自信がないから。	看護師
自分にとって必要なことを話してもらっていると感じると思うから	がん患者の家族
いま(どのタイミングでも)できる治療は全部教えてほしい	がん患者の家族
知りたくもあり、知りたくもなし	がん患者の家族
承認された治療法が無くなってから使うつもりだが、無くなってからではなくその前に知りたい	がん患者の家族
いつが良いかは医者と相談したい	がん患者の家族
自分では分からないから	がん患者の家族
最終的に治験を受けるかどうかは別として、症状からプロの判断のもと、選択肢の1つになり得るなら教えて欲しいです。	がん患者の家族
医師がしっかりと患者に寄り添って治療を進める上で情報として提供して欲しい	がん患者の家族
治療法が無くなってからではおそい。かといってはじめからそれを選びはしない。信頼している医師ならばその考えに委ねる。	がん患者の家族
治療方法選択のタイミングは、素人では判断できないと思う。	がん患者の家族
医師を信頼したい	がん患者の家族
お医者様との信頼関係を重要視したい	がん患者の家族
専門性が高い	がん患者の家族
現状をわかっている医師の判断を信じたいので。	がん患者の家族
治験で治りたい	がん患者の家族
わからない	がん患者の家族
自分ではわからない	がん患者の家族
わからないので医師と相談しながら治療したいから	がん患者の家族
自分では判断できないので	がん患者の家族
医師との信頼性が重要なためだと考えている	がん患者の家族
がんで家族の殆どを失い、自分は治療したいと思えないから。	がん患者の家族
患者側で判断するのは難しい	医療従事者
詳しくないため	医療従事者
医師が一番新しい治療方法を知っているし、患者に合う薬も分かるから	医療従事者
現存の医療で治療が可能ならば不要だが、最先端医療での治療が良好だと医師が判断した時に知りたい。	医療従事者
自分自身の状態と合わない治験データは知っても混乱するばかりだと思うので	医療従事者
医師と相談をして決定したい。	医療従事者
医師の判断を信用したい	医療従事者
信頼出来るドクターであれば、ガンに限らず治療は任せるものだと思うから。	医療従事者
適応症例かは医師がわかるので	医療従事者
選択できるだけの知識がない	一般
専門家の判断	一般
治療が無くなってからでは遅いと思うし、最初は、アルゴリズムに沿った治療をするべき	一般
自分にとっての最善の治療が何かを、先生が判断してくれると思うから	一般
全ては担当医に任せて、がん治療に専念したいと考えるから。	一般
医師を信頼し最善の治療をお願いしたい	一般
自分が判断できるほどの知識を有していない。不安である。	一般
実際にどんな情報かによるかと思う。	一般
運命には逆らえません	一般

専門的なことはわからないので。初期なら承認薬でいいと思いますが、進行しているなら医師に任せたい。	一般
お任せするということは、信頼出来ていることなので	一般
医師を信頼したい	一般
罹患したら俎板の鯉。	一般
やはり専門の医師にお任せします。	一般
最善方法は知識を持ち合わせていないから	一般
客観的な立場から、適切なタイミングで情報を得ることで、選択肢が広がるから。	一般
素人判断は危険だから	一般
情報なく判断できない	一般
実感が湧かないため、自分で判断するのは難しそうだから。	一般
自分にとってベターな状況を知識の無い自分では判断しがたいから。	一般
自分には全く分からないことなので、やはり、専門医の意見を聞きたいから	一般
選ぶのは自分であるが、タイミングは様々な患者さんと向き合っている医師に任せたいほうが患者さんに都合のよい時を掴んでくれそうだから	一般
自分ではわからない	一般
新薬の開発や治験は自分の治療法のタイミングとマッチするとは限らないから。	一般
治療方法は主治医に一任したいから	一般
自分で調べなくても必要な時には医師が教えてくれると考えているから	一般
信頼できる医師にまかせたいから	一般
最適なタイミングは医師にしかわからない	医師
種々の治験、臨床試験があると思うので。	医師
専門的な問題であるため。	医師
治療のタイミング(術後、術前、再発・転移初回や進行時)によって異なるので。	医師
医師の裁量も重要だから	医師
治験に入れるかどうかはタイミング次第なので	医師
自分の病状が当てはまらないタイミングで情報を提示されても意味がない。	医師
何を対象としたものかによる	医師
まずは、標準治療で臨みたい。	医師
種々の段階での臨床試験が行われているから	医師
標準治療があるかないかで違いますが、信頼する医師の判断を尊重したい	医師
自分が対象となるようなら知らせたい	CRC
初発時に適した治験や他の選択肢がない場合に参加する治験など、さまざまあるので。	CRC
経時的に状況や自分にとっての選択肢は変わるものと思うので	CRC
選択基準に合うものがあるときに提示して欲しい 治験そのものの紹介はがんの診断の時でも良い	CRC
医師が最善だと考える治療方針に従いたいと思う	CRC
前治療によって参加できなくなる試験もあるので、承認薬を使いきる前でも医師のタイミングで情報をもらえる方が良い。	CRC
様々なタイプの臨床試験があるので、合ったものを紹介してほしいと考えるため。	CRC
自分に合うものを紹介してもらいたいと思うため。	CRC
薬剤を使用するタイミングがあるので	CRC
検査を受けて、最優先の治療をまずは専門家の見識を仰ぎたい。	CRC
情報を知っているにこしたことはないが、医師が提案できると判断したときでないと参加自体が難しいと考えるから	CRC
がんのどの段階に使う薬であるかを専門の立場で考えてから選択をしてもらいたいから。	CRC
選択基準の確認など情報のスクリーニングが可能であるため	CRC
臨床試験の実施時期もあるため、医師の判断に任せる	CRC
自分がかかったがんの種類やTMN分類によるところが多いから。	CRC